

目標IX 文化芸術の振興

施策 27 文化芸術活動の充実

- [ア] 文化芸術活動への参加の促進 **重点施策⑳**
- [イ] 子供たちの文化芸術活動の充実
- [ウ] 障害者の文化芸術活動の支援
- [エ] 県立美術館などにおける活動の充実 **重点施策㉑**
- [オ] オリンピック・パラリンピックなどの開催を契機とした文化芸術活動の振興



第70回記念県展会場風景
(写真部門)

- 埼玉県芸術文化祭の開催 (8, 292千円) (担当:文化資源課) 【7】
 - ・ 地域文化事業
市町村や文化団体との共催により、地域における伝統文化の継承や文化活動の発表機会の提供及び文化活動の鑑賞・体験・交流機会の拡充を目的として、伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会など地域に根ざした文化事業を県内各地で開催する。
(開催時期) 令和5年8月～12月
 - ・ 第71回埼玉県美術展覧会(通称:県展)
県民が創作した美術作品を発表する場として、県立近代美術館で開催する。日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門の作品を公募する。
(開催期間) 令和5年5月31日(水)～6月22日(木)
 - ・ 芸術文化ふれあい事業
文化団体の専門家を学校や公民館などに派遣し、公演や実技指導を行う。音楽、美術、舞踊、演劇・演芸、文芸、生活文化、国際交流の7分野を予定。
(実施期間) 令和5年4月～令和6年3月
 - ・ 協賛事業
埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の関連事業として承認する。
(実施期間) 令和5年4月～12月
- 共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業のうち
 - 生涯学習支援アドバイザーの派遣 【ウ】 (施策13参照)

- 県立博物館・美術館等における教育・普及事業（担当：文化資源課）【1】
近代美術館において、学校との連携事業や、作品鑑賞をもとにしたワークショップ・講座などを実施する。また、歴史と民俗の博物館をはじめとする全ての県立博物館等において、学校との連携事業や地域資源を活用した体験プログラムなどを実施する。
- 県立博物館・美術館等における活動の充実【1】（施策28参照）
- 博物館、美術館におけるSNS等による情報発信【1】（施策28参照）

施策28 伝統文化の保存と持続的な活用

【7】伝統文化の保存・活用・価値の再評価

【1】伝統文化の魅力発信と学ぶ機会の充実 **重点施策⑩**

【ウ】市町村の取組への支援



博学連携に関する研修

- 文化遺産調査活用事業（2,644千円*）（担当：文化資源課）【7】【ウ】
埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を世界に発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査を実施するほか、文化財保存活用地域計画を策定する市町村に対して支援を行う。
 - ・ 無形民俗文化財調査：「巡り・廻りの民俗行事」の調査
 - ・ 自然遺産調査：入間川本流域を中心とした「入間川流域自然遺産」の調査
 - ・ 地域の文化財保存活用に係る市町村の取組への支援：文化財保存活用地域計画を作成した他県市町村の事例調査や市町村担当者・作成協議会委員を対象とする研修会開催、文化財保存活用地域計画作成中の市町村に対する助言等
 - ・ 博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業：児童生徒が実感的に学びながら、文化・文化財の価値を理解し、郷土に愛着を持つことができるよう、博物館・美術館等と学校との連携を支援
- 文化財保護事業補助（101,156千円）（担当：文化資源課）【7】
文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付し、指定文化財の適切な管理を図る。
 - ・ 国指定文化財、県指定文化財の保存事業に対する補助金の交付
 - ・ 埋蔵文化財包蔵地内で行われる建設工事に先立ち、市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付
 - ・ 県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業に対する補助金の交付
 - ・ 国指定文化財、県指定文化財の防災設備整備及び災害復旧など緊急対応等に対する補助金の交付

○ 特別史跡埼玉古墳群保存活用事業 (11, 262千円*) (担当:文化資源課) 【7】

本県を代表する文化遺産であり、学術上の価値が特に高く我が国文化の象徴である特別史跡に指定されている埼玉古墳群は、大型古墳9基を中心とする東日本屈指の古墳群である。この埼玉古墳群の恒久的な保存を図るとともに、その価値を顕在化させ、広く県民に公開するために必要な整備を行う。

- ・ 保存整備協議会の開催
- ・ 愛宕山古墳の発掘調査
- ・ 案内・解説板の整備
- ・ 鉄砲山古墳の整備基本設計

○ 埋蔵文化財保存活用事業 (53, 107千円) (担当:文化資源課) 【7】

県が収蔵する出土文化財の整理・保存を推進し、埋蔵文化財保護思想の啓発を図る。

- ・ 埼玉県文化財収蔵施設の活用
- ・ 出土文化財の整理・保存処理を継続的に実施するとともに、学術研究のほか、学校教育及び社会教育の場で活用し、生涯学習を推進

○ 県立博物館・美術館等における活動の充実 (担当:文化資源課) 【4】

◆ 歴史と民俗の博物館～ 埼玉の「いま」と「むかし」を体験する人文系総合博物館 ～

埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、子供たちの感性を育む体験的事業を行う。

企画展・特別展	期 間	内 容
出張展示「書画から見よう 栄一と惇忠」	R5. 4. 26 ～ 6. 25	渋沢栄一記念館が所蔵する絵画資料を公開し、歴史と民俗の博物館が所蔵する栄一と惇忠に関する書や絵画を展示する。会場：渋沢栄一記念館（深谷市）
特別展「縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー」	R5. 11. 14 ～ R6. 1. 14	記号・暗号・規則といった意味のコード code と縄文土器の名称の起源となった cord-marked pottery のコードマーク（縄文）をはじめとする文様に注目して埼玉県域の縄文社会の実像に迫る。
特別展「鉢形城主 北条氏邦」	R6. 3. 16 ～ 5. 6	鉢形城主北条氏邦とその家臣団をめぐる歴史を、近年における調査研究等の成果を踏まえ紹介する。氏邦と家臣団が奉納した小鹿野町法養寺薬師堂の木造十二神将像をはじめとするゆかりの文化財を公開する。



谷畑遺跡（伊奈町）出土の縄文土器（埼玉県教育委員会蔵、小川忠博氏撮影）

◆ 史跡の博物館～ 大地に刻まれたいにしへのロマンを再発見する史跡系博物館 ～

特別史跡「埼玉古墳群」・国指定史跡「比企城館跡群（菅谷館跡）」に位置する史跡系博物館として、県内の遺跡から出土した遺物の展示や様々な体験学習を通して郷土の歴史に関する理解を深める事業を行う。

企画展・特別展	期 間	内 容
テーマ展 埼玉の遺跡 「東松山市反町遺跡 －時代を彩る職人のムラー」	R5. 2. 25 ～ 5. 28	弥生時代から古墳時代の集落や古墳、古代の河川祭祀などが発見された東松山市反町遺跡にスポットを当てる。時代を彩る様々な出土品から、当時の人々の暮らしを考える。 (さきたま史跡の博物館)
企画展「二子山古墳と祈りの器」	R5. 7. 15 ～ 8. 31	埼玉古墳群の中央に位置する旧武蔵国最大の二子山古墳からは、近年の発掘調査で大量の土器が発見された。これらの古墳から出土する土器に焦点を当て、当時の祭祀のあり方を紹介する。 (さきたま史跡の博物館)
企画展「武蔵武士の食と信仰－ 食べて 祈って 戦って－」	R6. 1. 13 ～ 3. 3	畠山重忠ら武蔵武士が活躍した鎌倉時代を中心に、武士らが何をどのように食べてきたのかについて、歴史資料や考古資料から考える。 (嵐山史跡の博物館)



高坏形土器
(二子山古墳出土)



熊谷市下田町出土かわらけ
(模造含む)

◆ 自然と川の博物館～ 自然と人々との共生を創出する自然系総合博物館 ～

県内唯一の自然と環境分野を主題とした博物館として、恵まれた立地条件を活かし、自然と環境をキーワードとした体験を通じて楽しく学べる事業を行う。

企画展・特別展	期 間	内 容
企画展「自然の色と模様」	R5. 3. 11 ～ 6. 18	身の回りにある植物や動物には、その種類の数だけ特有の色や模様がある。時には身を守るため周囲に溶け込む保護色や有害生物を模した色合いになっていたり、同じ種類でも雌雄の差や地域差があったりするなど、多種多様である。自然界に見られる色と模様について、役割や多様性を紹介する。 (自然の博物館)
企画展「はね－飛ぶ羽・鳴く翅・ すごいハネー」	R5. 7. 1 ～ 10. 15	鳥や昆虫など、空を飛ぶ生きものが持っている「はね」。飛ぶ以外の機能をもった「はね」や、私たちの生活に役立てられている「はね」もある。「はね」を持つ生きものや「はね」の多様な機能を紹介する。 (自然の博物館)
特別展「うんち・糞・フンⅡ」	R5. 7. 8 ～ 8. 31	食べ物を摂取して生きている動物にとっては避けて通れない排泄について、糞に注目し、動物によりさまざまな色や形のものがあることを紹介する。また、糞と人との関わりを紹介し、身近な存在である糞の大切さについて考える。 (企画：自然の博物館、実施：川の博物館)
特別展「埼玉シェルワールド－ 貝からひも解く埼玉の自然－」	R5. 10. 28 ～ R6. 2. 25	秩父盆地をはじめ、埼玉県各地で見つかる貝の化石。それらは、海なし県の埼玉にも、“失われた海”が存在したことを私達に教えてくれる。太古の“埼玉の海”の様子や、貝殻に秘められた驚きの生態、進化の歴史を紹介する。 (自然の博物館)
企画展「入間川流域の自然遺産 調査から見たこと」	R6. 3. 9 ～ 6. 16	自然の博物館では、令和元年度から令和5年度にかけて、天覧山や有馬山など入間川流域の自然遺産調査を行った。この調査で新たに分かった、現在の生き物や地質のすがたを紹介する。 (自然の博物館)



埼玉県を代表する貝化石
「チチブホタテ」

◆ 近代美術館～ 埼玉と世界を結ぶ新たな美術との出会いがある美術館 ～

埼玉を核としながら、県内外の優れた美術作品を収集、展示するとともに、独自のテーマによる密度の高い企画展を開催する。また、美術への理解と関心を高め、創造の喜びを体験する各種の普及事業を行う。

企画展・特別展	期 間	内 容
戸谷成雄 彫刻	R5. 2. 25 ～ 5. 14	県内在住の戸谷成雄（1947-）は70年代から彫刻家として活動を始め、戦後の日本美術における彫刻表現を牽引してきた。本展では初期作品や「森」シリーズなどの代表作を紹介し、活動の全貌を振り返る。
横尾龍彦 幻想の彼方	R5. 7. 15 ～ 9. 24	日本とドイツを往来しながら制作し、晩年には県内にアトリエを構えた画家・横尾龍彦（1928-2015）の本格的な回顧展。西洋風の幻想画から抽象画へと画風を大きく変化させた横尾の全貌を紹介する。
イン・ビトウィーン（仮称）	R5. 10. 14 ～ R6. 1. 28	早瀬龍江（1905-1991）や林芳史（1943-2001）などの足跡を当館のコレクションを中心にたどり、日常や歴史、国境などさまざまな境界の間に立ち、往還を試みるアーティストたちの眼差しを紹介する。
アブソリュート・チェアーズ	R6. 2. 17 ～ 5. 12	デザインの文脈を離れ、20世紀以降の美術の文脈における椅子の表象に焦点を当てた企画展。「椅子の美術館」として知られる当館が、平面・立体・映像作品を通して、「究極・絶対」なるものとしての椅子に迫る。



横尾龍彦《青い風》 2003年
個人蔵

◆ 文書館～ 郷土の歴史と記録を伝える埼玉の“ふみくら”～

埼玉に関する歴史的・文化的に価値のある記録資料を収集し、県民共有の財産として保存するとともに、これらを活用して教育、学術及び文化の発展に寄与するため、展示や講座などの事業を行う。

企画展	期 間	内 容
夏季展示「“菅多尼訶（ボタニカ）”～本草学から植物学へ」（仮）	R5. 6. 6 ～ 10. 1	江戸時代、自然を対象とした研究は「本草学」と呼ばれ、そこから植物を研究する「植物学」が派生した。本展示では、わが国における植物学の祖、宇田川榕庵が著した「菅多尼訶経」をはじめ近代植物学の発展・成立に関する史料を紹介する。
秋季展示「国指定重要文化財 埼玉県行政文書公開「SAITAMA～記録史料から震災を考える」（仮）	R5. 11. 1 ～ 12. 24	日本は古くから数々の自然災害に見舞われてきた。人々はそこから立ち上がり、災害に備えるための知識を蓄積してきた。関東大震災から100年を迎える年にあたり、過去の記録史料から震災を見つめなおし、防災について考える機会としたい。
春季展示「古文書を楽しむ」（仮）	R6. 1. 23 ～ 4. 28	初春を迎える時期に合わせ、「古文書を読むことの楽しさ」や「古文書の歴史的背景」について紹介する。本展示では、文書館開館以来実施している古文書講座・講習で取り上げられた古文書を展示して、観ながら学べる企画展とする。

◆ さいたま文学館～ 県民の文学活動の拠点となり、文学を通して埼玉を発見する文学館 ～

本県にゆかりのある文学者の作品や関連資料を収集・保存・調査研究し、常設展・企画展での展示や図書室での閲覧などにより文学の振興を図るとともに、県民が文学活動に参加する機会を提供する。

企画展	期 間	内 容
企画展「大木実 暮らしの詩情」	R5. 4. 26 ～ 6. 4	昭和初期の代表的な文芸雑誌『四季』の同人として全国にその名が知られ、太平洋戦争後は大宮や鴻巣に居住して多くの詩を発表するとともに埼玉県のアート振興にも尽力した大木実の生涯と主な作品を紹介する。
企画展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」(仮称)	R5. 7. 26 ～ 9. 24	2013年創刊以来、累計部数350万部の大人気の児童文学書の世界観を体験できる企画展。これまでも児童書や絵本の企画展はあったが、大人ではなく、幼児から小学生を直接ターゲットにした初の展示。当館のオリジナルコーナーも設置する。
企画展「読書界を裏返した男 澁澤龍彦」(仮称)	R5. 10. 7 ～ 12. 3	旧制浦和高等学校時代にフランス文学に目覚め、その後、文学者として活躍した澁澤龍彦を取り上げる。自作の小説や随筆のほか、翻訳書も対象とする。また、濃厚で密接な交流のあった三島由紀夫との交友関係についても紹介する。
企画展「埼玉の歌人たち」(仮称)	R6. 1. 20 ～ 3. 10	埼玉県のうたの起源は飛鳥・奈良時代にさかのぼる。万葉歌碑も県内各地に点在する。こうしたうたの風土は現在も受け継がれている。今回の企画展では、昭和から現在に至るまで、埼玉の歌壇を彩った歌人たちを紹介する。

○ 博物館、美術館におけるSNS等による情報発信 (担当:文化資源課) 【イ】

各館でSNS等を活用し、企画展やイベント、収蔵品の紹介を行い、博物館、美術館の魅力や埼玉の文化財をより広く伝える。また各館ではそれぞれの特徴を生かした映像コンテンツを配信することで、多くの県民に学びの機会を提供する。